主体的・対話的で深い学びのある授業の創造

～豊かな学び合いを導く発問の工夫を通して～

山口市立小郡南小学校

１　はじめに

本校では、学校教育目標「高い知性と豊かな情操の調和のとれた心身ともにたくましい児童を育成する」の実現に向けて、授業改善による「授業の質」の向上に取り組んでいる。今年度は特に「豊かな学び合い」を実現するための発問の工夫に焦点を当て、主体的・対話的で深い学びのある授業を創造していくことについての研修を進めることにした。

２　具体的な取組

（１）　一人１授業

全教員が１年に１回は授業を公開し、「授業の質」の向上をめざすのが一人１授業の目的である。昨年度は実施教科を道徳科に絞って行ったが、今年度はそれに国語科・算数科を加えて３教科に広げた。これは、発問づくりを追究した昨年度の研究成果を他教科に応用することや、教員各自の得意分野を発揮できるようにすることなどをねらったものである。

（２）　全校授業

①　第１回（６月２４日）５年１組　山﨑健太郎教諭　道徳科「かれてしまったヒマワリ」

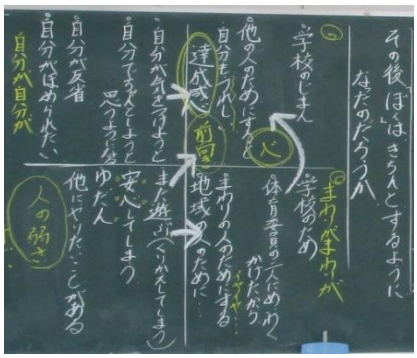
【本時の目標】役割を果たさなければいけないと分かっていながらもできなかった主人公の心情の変化を話し合う活動を通して、弱い自分に打ち勝ち、役割を果たしていこうとする心情を育む。

【主発問】「ぼく」は委員会の仕事をきちんとするようになったのだろうか。

【概要】指導案の中で、豊かな学び合いを実現する手立てとして、①事前アンケートの活用／②人間の弱さを意識させながらの「問い返し」／③分析ツールの活用／④終末の工夫の４点が示された。

（①に関して）自分たちが委員会活動についてどのように考えているかが「見える化」されたことで、教材を自分事として捉えることにつながった。

（②に関して）発問や問い返しによって、「やるべきこと＝責任」と「やりたくない・他のことをしたい＝自由」との間で揺れ動く子どもたちの「本音の発言」が多く聞かれた。



（③に関して）右図のような形で、主発問に対する子どもたちの考えが整理された。このことによって「役割を果たす」ということが、「周りのため」「自分のため」「積極的に」「しかたなく」等、多面的に捉えられることが分かった。道徳的価値をより深く考え議論する上で、分析ツールが有効であったといえる。

（④に関して）授業の終末で、授業者が用意した「見守り隊の方々へのインタビュー動画」が流された。働くことに対する前向きな意欲が喚起される動画であった。

②　第２回（１２月８日）１年３組　竹野有咲教諭　算数科「かたちづくり」

【本時の目標】色板の並べ方を工夫しながら指定された形をつくったり、影絵に線をひい

て色板の枚数を話し合ったりすることを通して、図形を構成する力を伸ばす。
【主発問】１枚目の色板の置き方をどうやって決めたらよいのでしょうか。
【概要】指導案には豊かな学び合いを実現する手立てとして、①学習意欲を高める活動／②ペアや全体での対話の工夫／③既習事項の活用　の３点が示された。
（①に関して）影絵の中に何枚の三角形が入るかを当てれば宝物が得られるという設定のスライドショーを見せることが、子どもたちの学習意欲を高めることにつながった。
（②に関して）隣同士や近くの席の子同士で、自分の考えを伝え合う時間が多くとられた。子どもたちは活発に交流していて、日常的に対話的な学びが行われていることがうかがわれた。また１年生なりの言語表現（ぴったり合わせる、くるっと回す、屋根みたいに見える）で考えを表す姿や、友達に「おたずね」をする姿など、多様な対話の形が見られた。
（③に関して）前時には、色板２枚を組み合わせて山・四角・こまの形などを作る学習をした。それらの形を黒板に貼っておくことで、既習事項を活用しながら本時の学習課題に取り組むことができた。
（主発問に関して）子どもたちは、机上の三角形の色板を影絵に隙間なく敷き詰めようと試行錯誤していた。主発問や補助発問によって、それを単なる個人の活動に終わらせず、うまくいかないことを発表させたり、同じ影絵でも並べ方に違いがあることに気付かせたりするような「対話のある学び」にすることができた。「豊かな学び」の大切な要素として「豊かな対話」をいかに生み出すかが、本研究の焦点であると考えさせられた。

３　成果と課題

今年度は計２４回の一人１授業及び全校授業を行った。各回終了後に「振り返りカード」を授業者に書いてもらい、それをまとめて研修部だよりとして全教職員に周知する形をとった。そこから浮かび上がった成果と課題を以下にまとめる。

成果 ＝「豊かな学び」を実現するために有効に働いたもの	・児童の考えの見える化・分類 ・教具・ワークシートの工夫による、思考の深まり ・自分事として捉えるための発問 ・事前アンケートや既習事項等、本時の学習への土台作り ・様々な形での対話の設定による思考の深まり ・ICT 活用（クロームブック、電子黒板等）
課題 ＝「豊かな学び」を実現するために今後追究すべきこと	・中心発問、補助発問のつくり方（子どもの思考に合わせて） ・ゆさぶり、問い返しのあり方 ・子どもの多様な考えの引き出し方 ・子ども同士の考えのつなげ方（ファシリテーション） ・対話のバリエーションを増やすこと ・友達の考えを聞くこと、自分の考えと友達の考えを比較すること ・子どもの発言で授業を展開すること

これを見てみると、先生方の目が「対話・思考の深まり・発問」に向けられていることが分かる。我々がめざすべき「豊かな学び」を説明するならば、**「発問を出発点として、『個人の学び』が対話を通して『集団の学び』になり、思考が深まってゆく授業」**ということになるだろうか。今後もまた継続して追究していきたいと考えている。